

綸言？汗のごとし

去る9月17日、「REKIKEN」の第1回会議（設立会議）が、ハイブリッド方式で開催され、座長が選出された。メンバーは総勢34人で、うち4人は当会現役職員である。今後の活動は、LIBRAへの連載と、歴史資料室の設置、古参会員へのインタビュー等を行っていくことが確認された。

・・・なんて、少し歴史記事風に書き出してみましたがおそらく大半の皆さまは、そもそも「REKIKEN」って何？って感じかもしれません。

「REKIKEN」は、東京弁護士会歴史研究会の略称です。その目的は、当会の歴史を研究し学ぶことにあります。三国志とか日本史とかの歴史を学ぶ会内の場合ではありません。この点、誤解されている方もいるようです。

この「REKIKEN」の契機は、私が副会長に立候補する際の公約にあります。

私が、自身の公約を検討していく中で、「弁護士自治って何だろう？」と考え、さらに「東京弁護士会のアイデンティティとは何か？」を自問自答しているうちに、自分自身が実は当会のことを殆ど分かっていなかったことに、はたと気づき、まずは、きちんと当会の歴史を学ぼうとの思いに至り、（軽率にも、）当会の歴史の研究をしませんかなどと選挙用メルマガで発出したことが契機となりました。

その後、2030年に当会が150周年を迎えることもあり、この企画が本年度執行部で理解され、正式な企画として進むことになりました。

メンバーを募集したところ、予想に反して34人からの応募があり、うち4人は当会現役職員からのエントリーでした。メンバーは老壮青が集い、やや

副会長 三澤 英嗣 (48期)

主な担当業務：人権擁護、刑事弁護、刑事法対策、刑事拘禁、秘密保護法・共謀罪法対策、法曹養成、裁判員制度、公設事務所、法教育、夏期合研



青が多めという感じですが、ジェンダーバランスは悪いです。そういう意味では、当会の歴史に興味を持つ歴女の方の参加を期待したいところです。来たれレキジョ！

さて、産声を上げたばかりの「REKIKEN」ですが、今後の活動は、①LIBRAへの連載企画、②当会資料室の設置企画、③当会委員会活動の研究、④古参会員へのインタビューの4つの柱を予定しています。

まず、①の柱は、「東京弁護士会百年史」を通読し、会員向けに弁護士及び当会の歴史をお伝えするものです。③の柱も、この中で表現されていくものかもしれません。因みに、メンバーにはすでに東弁百年史（1000頁超）を通読した強者もいらっしゃいます。

次に②ですが、当会にはいろんなお宝が眠っていることが分かったため、それを眠らせずに展示しようという思いから始まっています。すでにツイッター等で矢吹会長が着ている弁護士用の法服がそのお宝の一例です。特に図書館には貴重なお宝があるようです。

最後に④の柱です。今回の「REKIKEN」には、古参の大先輩会員もご参加頂いております。是非、それら会員始め多くの大先輩にインタビューを実施し、生の映像記録として残したいと思っています。

副会長職もようやく折り返し、終わりが待ち遠しいですが、この「REKIKEN」だけは、言い出しっぺである以上、私は、副会長退任後も2030年まで約10年近く続きそうです。綸言？汗のごとし。結局は、歴史を学ばない者は痛い目に遭います。